

学校便り

第335号
平成26年12月25日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木隆志

好奇心と粘り強さを

副校長 田中 豊一

平成26年（2014年）も、無事に過ぎようとしています、今年は皆さんにとってどのような年だったでしょうか。

学校では、この一年間を通して、光っ子たちが日々成長し、ますますたくましくなってきたと実感しています。御家庭でも、この機会に一年間の成長ぶりを見つめ直し、褒め励ましてください。迎える年も、めあてをもって伸び伸びと学び、笑顔輝く年となりますように願っています。

ところで、年末には、「青色発光ダイオード（LED）」の開発と大量生産する技術の開発で、日本人3人がノーベル賞を受賞しました。ご存じのように、LEDは多くの照明器具に使われ、寿命が長いことや消費電力の少なさ、あるいは小型化が可能になり、大変多くの利点があって世界中で評価され実用化されています。赤や緑のLEDは比較的早く実現していたにもかかわらず、青に関しては何十年間も研究を重ねてきてやっと実現しました。本当に、ノーベル賞受賞にふさわしいことだと、心からうれしく思います。

今回受賞された3人の方に共通することの一つは、「好奇心をもって挑戦し、粘り強く取り組む」といった姿勢です。3人の方の、この姿勢や態度は、きっと今回の研究をする以前の、子供の頃から備わったものだと思います。

実は、小学校生活の中で、子供が好奇心を抱く機会や粘り強く取り組むべき機会はたくさんあります。大切なのは、子供の好奇心を大切に育ててあげることではないでしょうか。

「ねえ、ダンゴムシ、丸くなったよ。」「触っちゃダメよ、汚いから」とか「リッリッって鳴いている虫は何だろうね。」「分かるわけ無いでしょう。」あるいは、「あの星はなんて言うの。」「そんなことより、寒いから速く歩きましょう。」と言う会話からは好奇心は育ちません。

「へえ、おもしろいね。」「図鑑で調べてみようか。」「気の済むまで見てごらん。」等というように、子供のペースでゆっくりと考えたり実践したりする時間を与え、子供の驚きや関心に共感し、図書館に連れて行くなどの手助けをすれば、好奇心と同時に粘り強く取り組む姿勢が育つことと思います。ぜひ光っ子みんなに、ノーベル賞を受賞するにふさわしい資質が育つことを期待しています。

さて、これまで学校では、保護者の皆様の御協力も得て、暴力のない楽しい学校生活づくりに取り組んできました。各学級では、楽しく学校生活を送ることができるようにするためのアンケート調査も行いました。各家庭においても、お子様の声に耳を傾けたり、学校生活における出来事などについて話し合う機会をもったりするとともに、人を大切にすることや暴力はいけないということについて御確認ください。そして、何かお子様について心配なことがあれば、いつでも、どんなことでも学校に御相談くださるようお願いいたします。

最後に、ノーベル平和賞のマララさんの言葉をかみしめて、子供の健やかな成長のために今後も力を尽くします。来年も本校教育への御理解と御協力をよろしく願います。

『1人の子供、1人の教師、1本のペン、1冊の本が世界を変えられる』